

2025 年 1 月 17 日(金)

阪神・淡路大震災から30年

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、兵庫県南部を震源とするマグニチュード 7.3 の地震が発生しました。これにより神戸を中心に多くの家屋が倒壊、関連死を含めて 6,434 名の方が犠牲になりました。およそ 10 万 5 千棟の家屋が全壊し、死因の 9 割は家屋の倒壊によるものでした。ただし、当時は大規模災害に伴う復旧・復興に関する法律や支援制度も整備されておらず、自治体も含めて資金・人材など政府からの支援は少なく、多くの方々が自力で生活の立て直しに当たられて来ました。

『日本沈没』という SF 小説で有名な小松 左京さん[1931-2011]は、他の仕事をすべてキャンセルして、震災直後からこの震災に関するルポルタージュを 1 年間に渡って新聞に綴って来られました。『日本沈没』の中で描いたようなことは、専門家でさえ起こりえないこととして否定されましたが、それが現実の出来事となってしまったのです。それをまとめた書籍が『大震災'95』です。小松さんは、ルポの最後に「おもしろいと思ったら、学ばなり、研究するなり何でもすべきだ」とし、「情報をまとめ、整理し、判断する」ことの大切を説いています。

ただ、「災害列島」と呼ばれる日本では、その後も東日本大震災(2011 年)、広島市の土砂災害(2014 年)、熊本地震(2016 年)、九州北部豪雨(2017 年)、奥能登地震(2024 年)など、大規模な自然災害が相次いで発生しています。神戸大学では、震災体験を踏まえてほぼ月に 1 回のペースで研究者や行政担当だけでなく、市民を交えて震災に関するゼミを開催しており、これまでに 300 回を越えているそうです。震災体験を風化させず、未来の世代へと語り継ぐことが私たちに与えられた使命とも言えるでしょう。

余談ですが、この震災で私の従兄弟や義姉家族も被災・全壊しました。それから 30 年、未だに傷の癒えることのない被災地の皆様並びに尊い生命を失われたご家族の皆様へ心より哀悼の意を表します。私たちは決して災害を忘れません。

参考図書

小松 左京(1973)『日本沈没(上)(下)』光文社カッパ・ノベルズ, 264 頁 + 248 頁。2005 年に小学館文庫として上・下巻で再刊。

小松 左京(1996, 再 2024)『大震災'95』河出文庫, 432 頁。

阪本 真由美(2024)『阪神・淡路大震災から私たちは何を学んだか ―被災者支援の 30 年と未来の防災』慶應義塾出版会, 2343 頁。